

## 監督短信

監督 森川 泰

2016年度も色々と有りましたが、その中でも大きかったのは関東での競技会中の事故です。この事故で残念ながらパイロットが亡くなりました。この事故についてはご存知の方も多いと思いますが、我々に関わりの深いことですので、ここで簡潔に触れさせて頂きたいと思います。但し、まだ事故調査委員会からの正式な報告はまだで、あくまで推測の域を出ないことをご承知おき下さい。

この事故は全国大会の予選でもある関東大会の初日に起こりました。この日は祭日でもあり、多くの観客が見守る中でのことでした。好条件の競技日でしたが、午後になりピークは過ぎて徐々に渋い条件になりつつありました。このパイロットはランウェイの近く高度200~250mぐらいで最後の粘りをしていましたが、諦めて場周に入ろうとしていた時にスピンに入り、一旦は回復したものの反対方向にスピンに入り、そのまま回復出来ませんでした。

ここで、原因或いは影響を与えた要因として我々が注目しなければならないことが幾つかあります。一つは重心位置の問題です。皆さんご存知の様に重心位置が後方へ寄ると安定性が悪くなりスピンに入り易くなります。このパイロットは滑空性能を少しでも良くする為にあまりバラスト搭載せずに重心位置を後方寄りにしていたのではと疑われています。次に高度の問題です。本来なら場周に入る判断をすべき高度であったにもかかわらず、競技中であった為か無理をして上昇風帯にしがみついた様です。その結果、低高度であった為に落ち着いて回復操作が出来なかったのではと思われます。その他にも幾つもの要因が重なったのでしょう。

この事故から何を教訓とし今後注意していかな

ければならないか、私なりの考えを少し述べます。まず、重心位置に関しては、飛行前点検で機長の責任として正確に確認すること、重心位置の物理的意味を十分理解することを学生に指導しなければなりません。間違った理解や形式的な確認に陥ることは非常に危ういことです。次に場周判断についてですが、動力の無いグライダーにとっては適切な高度とポジションの判断は安全飛行の命綱です。適切な判断能力を身に付けさせる様に学生を指導することが大切ですし、もう少し飛んでいたいという誘惑に負けずセーフティーファーストの判断を出来る心の強さを身に付けさせなければなりません。至極当たり前のことばかりですが、当たり前だからこそ、これを学生に真の意味で徹底させることは難しいとも感じています。

今年も新入部員が多数入り、多くの部員が家用操縦士になることを目指して指導して行きますが、常に安全最優先で、と気持ちを新たにしております。最後に亡くなられたパイロットのご冥福をお祈り致します。